

平成二十八年四月投句

【グリーンパーク 若松】

馬を吸ひ素知らぬ虻の眼の緑

金鳳華咲く野くづほれ地震つゞく

石楠花や蕾に初めし紅のひび

勝利

通院の合間の今日を野に遊び

光子

別れ来て蹴れば重たき花屑の

図書館の係居眠り日永かな

哺乳瓶くわえ眠る子花の下

鶯や丘に小人の街展け

場所取りのロープをゆらす花の風

佳与子

地震に関わることもなく春の星

真理子

花御堂作法を僧に訊きもして

葱坊主地震の余震の収まらず

地震に揺れながら春夜の警報を

草を食む山羊の鬚先春の泥

窓震え家軋む地震春の夜

節子

新宿の川に穴場のやうな花

由紀子

受話器手に校歌を歌ふ新入生

朧夜の町を一撃大地震